

岩手県立大槌高等学校



- 1 学校概況
- 2 探究的な取組
- 3 普通科改革の取組
- 4 成果と課題

令和5年度普通科支援事業指定校

発表会資料

令和5年9月22日（金）

岩手県大槌町

どこにある??

1 学校概況





- 生徒数176名（1年62名 2年57名 3年57名）
- 各学年2クラス 計6クラス
- 令和6年度より地域探究科（仮称）へ



大槌町との連携

魅力化コンセプト

ハンマー
大海を航る、大槌を持とう！

予測不能な社会に漕ぎ出すにあたり、

「大槌（ハンマー）＝強み」を持って、地域や社会に貢献できる人材になろうという意味が込められている。

大槌高校の魅力化

スクール ポリシー

グラデュエーション・ポリシー [育てたい生徒像]

自立

意志がある

協働

仲間とともにある

創造

逆境から創り出す

カリキュラム・ポリシー [本校の教育活動]

地域と連携・協働した探究的な学びにより、一人ひとり個性を大切にしながら強み（ハンマー）を育てる教育を展開

アドミッション」・ポリシー [求める生徒像]

- ① 互いを認め、高め合って協働し、切磋琢磨しながら成長しようとする生徒
- ② 自らの在り方や生き方を探究し、主体的に学び、考え、行動する生徒
- ③ 将来、地域や社会に貢献するために日常の学習に前向きに取り組む生徒
- ④ 部活動やボランティア活動など、様々な活動にチャレンジしようとする生徒
- ⑤ 大槌の自然環境や地域社会に関心を持ち、未来について考えることができる生徒

地域との連携・協働



大槌高校



連携



大槌町



3人のコーディネーター
(魅力化推進員) 派遣
職員室に常駐



NPOカタリバ
大槌臨学舎運営

協力・支援

協力・支援

小・中学校

地元企業

大学・研究機関

令和2年6月校舎内に公営塾 「コラボスクール大槌臨学舎」

NPOカタリバが
中高生の学習支援・居場所づくり



部活動 (67%の生徒が加入)

<運動部>

硬式野球 サッカー 女子バレーボール 弓道
男女バスケットボール 女子ソフトテニス
男女バドミントン

<文化部>

吹奏楽
総合文化部

(OA・書道・美術・インターアクト)

震災後の町のために、
大槌高校生ができることを

復興研究会



在校生徒の約4割が所属



定点観測
他校交流
防災紙芝居



キッズステーション



本町



この活動で
R3 「防災まちづくり大賞」において**総務大臣賞**
R4 「防災功労者**内閣総理大臣表彰**」を受賞

平野町長さん表敬訪問⇒



令和4年9月13日 総理官邸での表彰式
達増知事さん表敬訪問⇒



東京大学大気海洋研究所と 海を舞台に研究する はま研究会

International Coastal Research Center



(1) アワビの調査



(2) 海岸漂着物の調査



(3) ウミガメの調査



ウミガメの生態は産卵時と孵化する時については多数の研究結果があるが、それ以外はまだ謎が多い。三陸沿岸に回遊してくるウミガメの食性などを調べる。

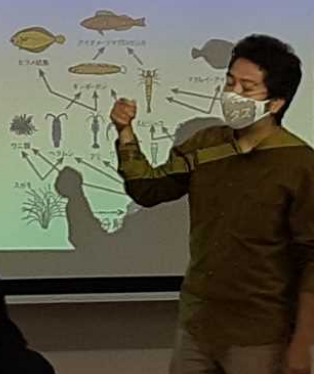


(4) 藻場の生き物調査

大槌湾の藻場生態系の特徴を数・量から理解する (究極目標)

- 生態系 = 生物を介した物質の流れ
- 群集構造・・・どのような種、何種
- 食物網構造・・・食う・食われる
- 地域固有の生態系は調べられていない

大槌湾の生態系を調べませんか？



過去にこの先生がカニの新種を発見している。
湾内の藻場に生息する生き物の同定と分類。



(5) 大槌湾の環境DNA・河川の水質調査

環境 DNA (environmental DNA, eDNA)

- 環境中に存在する DNA
- 例えば、水、空気、土など
- 複数の個体・種に由来する DNA の混合物
- 生物そのものではなく、生物の「痕跡」を捉える

川・沿岸から外洋まで



(6) 干潟の調査



(7) 藻場の分布域調査



(8) サケのDNA解析



(9) 釣り

校則検討委員会

令和2年度 厳しい服装点検、ツーフロック
靴下の色の指定などを廃止

令和3年度 厳しい応援歌練習、応援委員会を廃止

令和4年度 今までの校則変更が正しかったかどうかの検証
ジェンダーレスに向けた制服の検討



生徒が校則を見直し、職員会議に提案

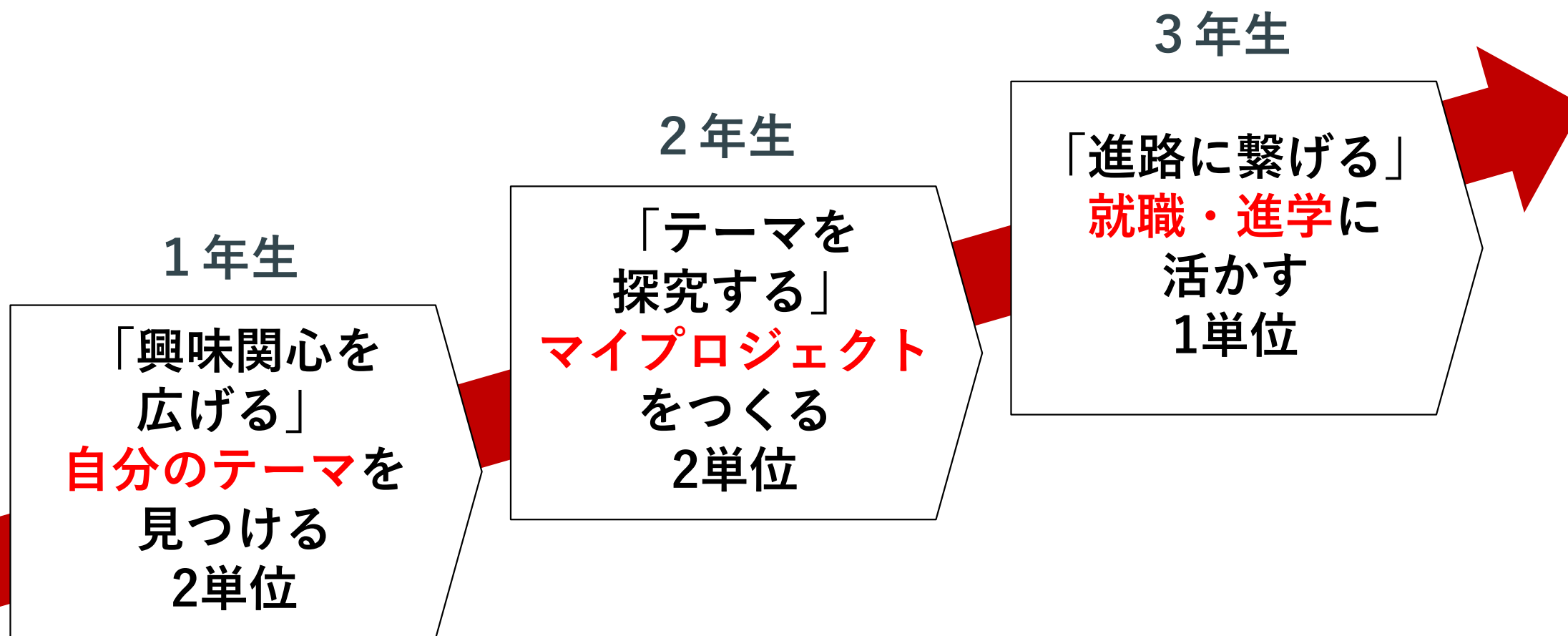


2 探究的な取組

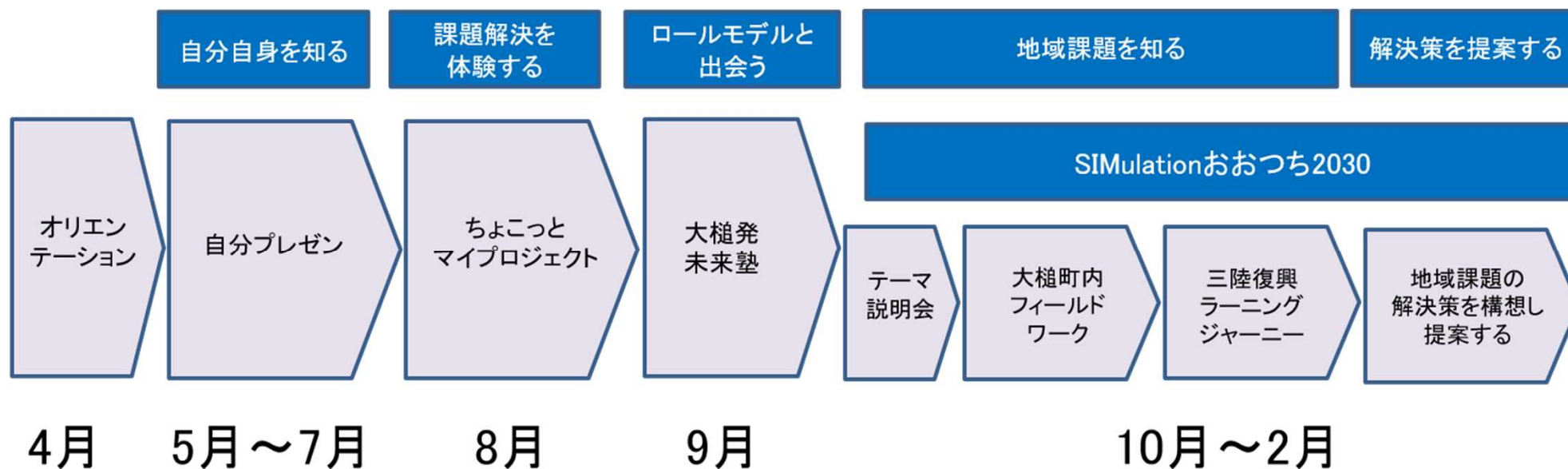
「三陸みらい探究」とは

地域の課題に目を向け、主体的な学びを通して
三陸地域の復興を担う人材を育成することを目指す

3年間で5単位実施



・ 1年生：自分のテーマを見つける～「自分プレゼンテーション」～



2年生：自分のテーマを探究する～「マイプロジェクト」～



大槌のもう1つの「海の恵み」

私は、町内で廃棄されてしまっているピーマンを少しでも減らしたいと思い、ピーマンを使ったお菓子の開発に取り組んでいます。これまでに、地元農家さんや役場職員の方へのヒアリング、お菓子の試作などを何度も重ねました。



てるい ひめか
照井 姫歌さん



全部で6回の改良を重ねて完成したお菓子は、期間限定でチャリカフェさんで販売していただくことになりました。

ピーマンの花言葉は「海の恵み」。私が作ったお菓子が、大槌の海と並ぶ新たな魅力となったら嬉しいです。



3年生：探究を進路につなげる～ 「アカデミックディスカッション・職業インタビュー」～



主要五教科でも探究的な学び

探究教科…地域みらい学
(知識の統合や探究力を育む科目)

総合的な探究の時間 (三陸みらい探究)
マイプロジェクト：テーマ探究

学校設定科目

ひよっこり
表現島
(国語)

まちづくり
探究
(地歴公民)

Eパスポート
(英語)

くらしmath
(数学)

おおつち
ラボ
(理科)

連携先

大槌町の
集落

大槌町
役場

姉妹都市
アメリカ

地元企業

東京大学
海洋研究所

一般教科
(思考基礎力を
育む科目)

国語

地歴
公民

数学

理科

英語

保健
体育

芸術

家庭

情報

商業

3 普通科改革の取組

管理機関名：岩手県教育委員会

【岩手県立大槌高等学校】地域探究科（仮称）（設置 令和6年度予定）

事業構想

「大海を航る大槌（ハンマー）を持とう」を実現し、
「学ぶことが楽しい」「もっと学びたい」と思う
魅力的な学びの環境を地域と共に創る

事業目的

- ・ 多様な学びを保障する個別最適化されたカリキュラムの実現
- ・ 復興を担う人材の育成、社会教育の拠点としての高校の実現

特色・魅力ある 教育の概要

- ① 生徒自らが選択・調整できる学び
- ② 地域社会を舞台に学ぶ実践的な問いからはじまる
- ③ 放課後等の学校外に広がる探究的な学び
- ④ 個別最適なりメディアル教育の実践

関係機関との連携

大学

東京大学大気海洋研究所
(はま研究会の設置)

行地域団体・企業

商工会・地元企業

(地域を舞台とした探究活動の受け入れ)

小中学校

大槌学園・吉里吉里
学園 (総合的な探究
の時間の連携授業)

大槌高校
魅力化構想会議
(コンソーシアム)

議会

大槌町議会

(SIMおおつち2030
の実施支援)

保護者

小中高PTA
(探究活動への
保護者の理解)

行政

大槌町

(フィールドワーク
・コーディネーター配置等)

魅力化構想会議 (年3回)

運営指導委員会 (年2回) より指導・助言を仰ぐ

令和4年度目標と取組状況

①全教員からなる 3つのワーキンググループ (WG) 設置

②地域を題材とした 探究の実践と充実

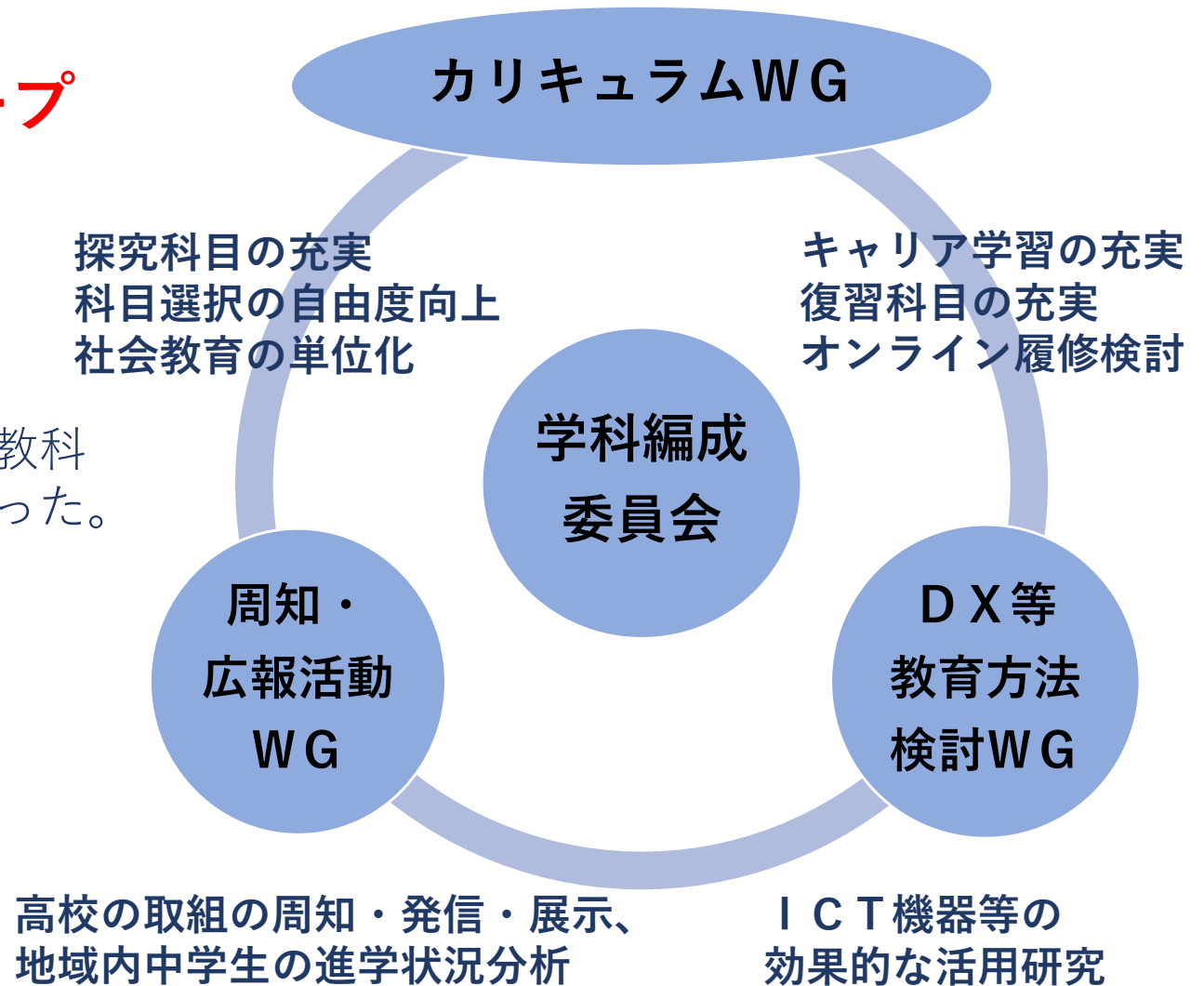
- ・「三陸みらい探究」、学校設定教科の「地域みらい学」の深化を図った。

③先進校事例の収集と 情報交換の実施

- ・全国の12校と交流を深めた。

④コーディネーターの 有機的活用

- ・探究の企画、会議運営等あらゆる事業の推進役として、地域協働を推し進めた。



大槌高校の今後の動き 3ヶ年の実施計画

令和4年度

新学科設置に向けた準備期間

- コンソーシアムを設立
- 学校設定科目の本格実施
- 探究科目の評価分析
- スクール・ポリシーの公表
- **校内に学科編成委員会を設置
(下部組織WG設置)**
- 新学科の名称検討
- 先進校視察
- 校内研修会の実施
- 新カリキュラム検討
- デジタル教材の比較検討

令和5年度

- **教育課程の決定**
- 周辺中学校及び地域、関係機関への説明
- 新学科設立に向けた広報活動
- 新学科の設置に向けた条例・規則改正（岩手県）
- **新学科入学者選抜実施**
- 校内研修会の実施
- 個別最適な学びに関する研究
- 社会教育科目の単位化検討

令和6年度

新学科設置初年度

- **新学科第1期生入学**
- 教育課程の見直し
- 事業全体の評価・検証
- 校内研修会の実施
- 個別最適な学びに関する研究
- 社会教育科目の単位化検討

※学校運営協議会制度導入

ワーキング(WG)の検討について
(カリキュラムを中心に)

生徒ワークショップ・アンケート集計結果
(R4.10実施)
改革の理念・方向性

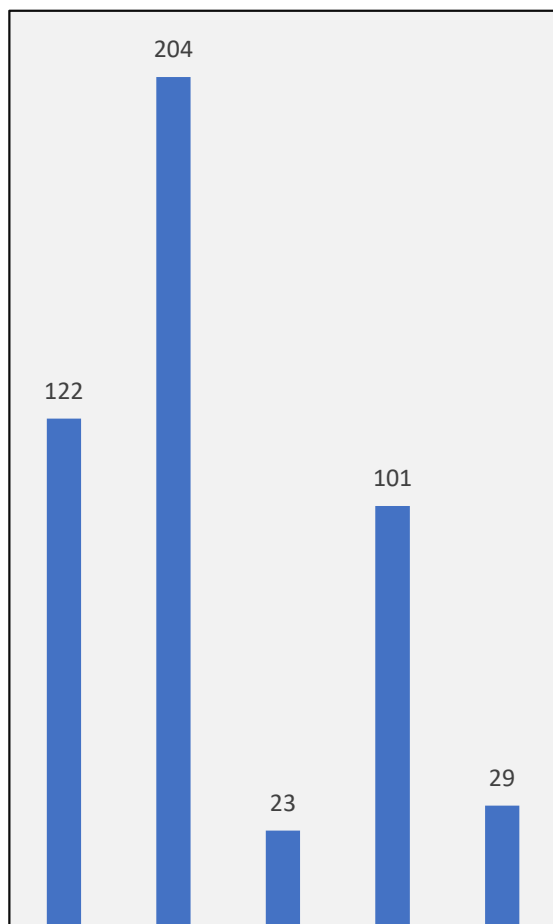
大槌高校魅力化構想会議報告抜粋
(R4.12)

生徒アンケート全体結果

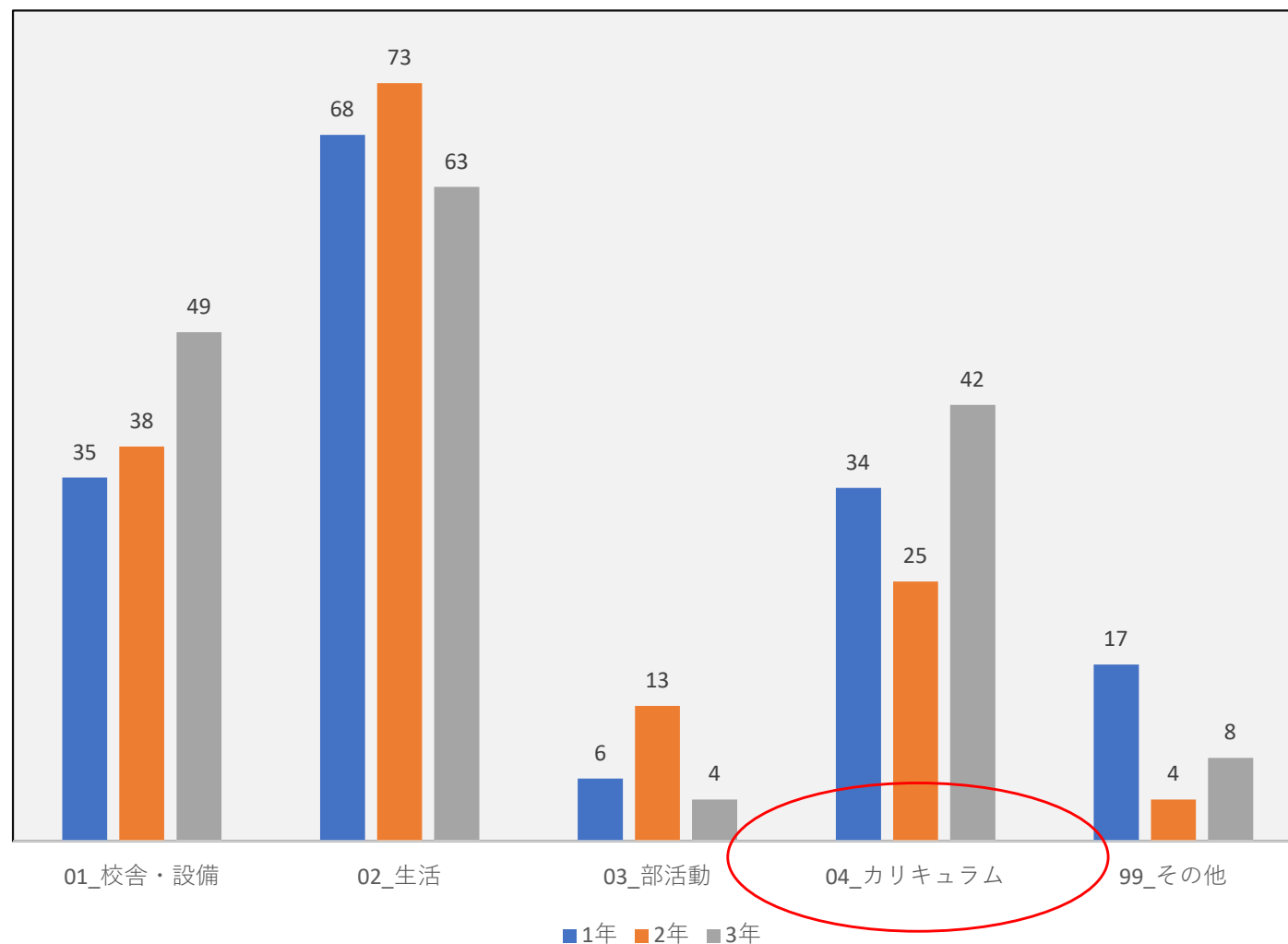
カリキュラムWG資料 1

- 最も関心が高かった項目は「生活」に関する項目であり、次いで「校舎・設備」、「カリキュラム」が同程度
- 各学年ごとの傾向は特段は見られなかった

全校



学年別



カリキュラム(詳細)(生徒アンケート結果)

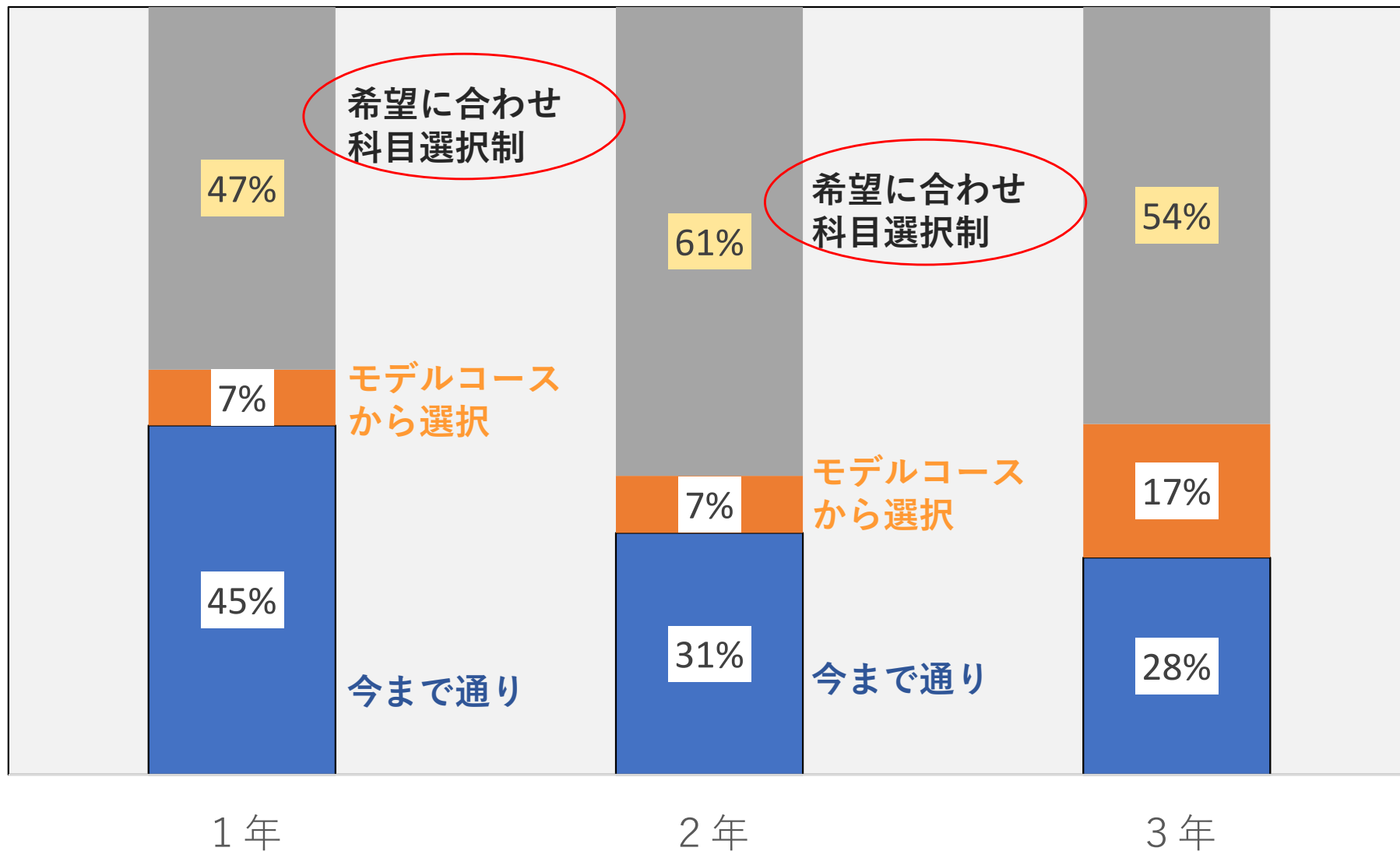
カリキュラムWG資料2

分類	生徒提示例
試験	テスト禁止、単元テストにすべき、テスト無し
文理教養	途中でコースを変更できるようにしてほしい、文理にも教養の教科取り入れてほしい、文理にもインターンシップ、パソコンの授業をやってほしい、コース選択で情報の授業を開始させる(文理に行く場合も情報ができる)
科目選択	大学みたいに自分で授業を選ぶ、自分で時間割をつくる、選択授業(将来に近づけるような)、何個かあって自分がやりたい分野を学べるようにしてほしい、大学みたいに自分で授業を選ぶ、専門分野を学べる
授業	授業の内容をスマホで撮影してよい、他科目と協力授業が増えてほしい(古典・家庭科)、他の学校にない授業、海に行く、先生を選べる、学年関係ない授業
オンライン等	オンライン授業、スマホ、パソコンを使う授業を増やす、ICTを増やしすぎないでほしい、板書をスマホでしたい、授業の黒板をスマホで撮影可、岩手県の人とオンライン授業・魅力を言い合う、海外の人とオンライン英会話
キャリア教育	職業に関する授業があると楽しく学べる、自分の進路に関わる授業を増やしたい、仕事の見学を多くしたい
校外学習	県外・東北外に校外学習、外に出る授業
町との協働	町に関する授業を増やす、地域の人と接する場所をつくるようにする、交流の場を増やしてほしい、県外に大槌の魅力を発信する
グループ学習	グループをつくる時に毎回一緒になるから、他の人ともできるように工夫してほしい、授業はグループ活動が良い、極力無口で(話し合いしたくない)ぼっちに人権を、授業で頭いい人たちと苦手な人たちを分けて授業したい
その他	受けたくない授業は出なくていい、留年なし

授業の選び方について(生徒アンケート結果)

カリキュラムWG資料3

- 希望に合わせて科目選択制のニーズが最も強い
- 1年生は選択履修が出来る範囲が少ないため、「今まで通り」という回答が大きいのでは。



学校独自の科目について(生徒アンケート結果)

- 基礎学力の定着というニーズが最も高い
- また学校独自の特徴的な学びが高く、他はほぼ同程度

カリキュラムWG資料4



科目選択

- 自分の好きな科目や自分のレベルに合った科目を選択して授業を取りたい
- 大学に進学したい生徒はレベルの高い科目を受けたいと考えており、そうでない子にとっては授業のレベルが合っていないと感じている
(復習科目を取りたいという生徒の声は、もっとわかりたいという声とも考えられる)

科目案

- インターンや検定等、実学志向の科目を取りたい生徒も一定数いる
- 教科学習の復習というニーズは非常に高い。
- 海洋に関する科目など大槌という地域性を活かした科目についてのニーズも一定ある

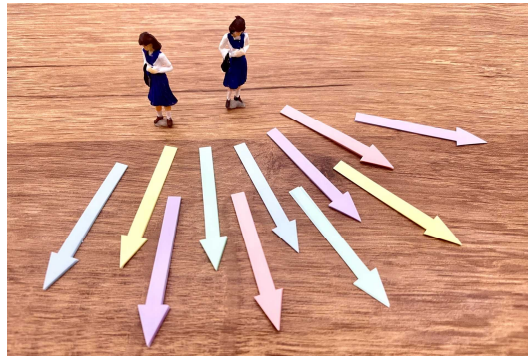
その他

- オンラインでの履修などについても一定のニーズがある
- グループ学習については賛否があり、一様にすることはできない。

魅力化コンセプト「大海を航る大槌を持とう」を実現するため、生徒へのワークショップなどを踏まえて改革の理念を以下に設定。

①誰もが通いたくなる学校に

様々な進路希望、学力、発達の特性、学び方への要望を持つ生徒、誰もが通いたくなる学校に



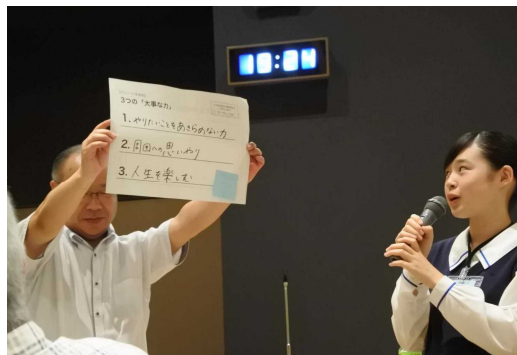
③地域を最大の学びの場に

学校内だけではなく、地域に出ることで探究は深まる。そうした点から地域の資源を活かしたカリキュラムとする。



②協働する場としての学校の価値は引き続き残す

オンライン等で学習のコンテンツが共有される時代においても、学校として集まる意義のある場となる



④生涯にわたり必要な資質能力を育てる高校に

これまでの知識技能(リテラシー)だけではない、コンピテンシーを育てるカリキュラム(行事を含む)に



■ 改革の方向性

カリキュラムWG資料7

① 探究的に学ぶ科目の充実

総合的な探究の時間
(三陸みらい探究)
※両コースとも5単位



+

地域みらい学
(5教科の探究科目)
※就職・専門コースのみ
12単位

くらしmath(数学)

まちづくり探究(社会)

Eパスポート(英語)

ひよっこり表現島(国語)

おおつちラボ(理科)

+

① 家庭・情報などの科目に関する
探究科目の設定

② 既存教科(5教科)を探究的な学びに

現状の探究科目

新規の探究科目

② 科目選択の自由度向上

- 原則は、進学コース(文理コース)と就職・専門コース(教養コース)のみで授業科目にあまり選択の余地はない
- 選択できるのは進学コースで文系か理系を選択するのみ。就職・専門コースは学びたい科目を選択できない

国が定める必修科目
(34単位)

+

普通科であり大槌高校として学んでほしい必修科目(?単位)

※どの程度の単位とするかは今後議論

+

生徒自ら選択する科目(?単位)

現状

改革の方向性

その他

特色ある選択科目として、防災や海に関する科目については新しく選択科目を設置することも検討

③社会教育の単位化



震災後から活動を続ける
「復興研究会」



東大海洋研と連携をした
「はま研究会」



地域行事のボランティア参加
※写真は安渡地区大運動会

- 生徒の社会教育での学びも高校生活における重要な学びとして単位化
- 上記の活動にレポート等を課し、活動時間30時間以上等で単位として認めるのはどうか
- 生徒の中にはこれまでの卒業単位90単位以上を取得し卒業する生徒もいることが想定される

④キャリア学習の充実

現状の課題

- 年に3日間程度のインターンシップ
- 生徒からも実社会に活かされるような科目の設置が期待されている
- 就職を目指す生徒の学習意欲を喚起できているとはいえない状況



改革の方向性

「日本版デュアルシステム」の導入

日本版デュアルシステムとは、厚生労働省が推奨する「働きながら学ぶ、学びながら働く」ことにより若者を一人前の職業人に育てる新しい職業訓練システムであり、高校の中での座学と職場体験を同時に行っていくシステム。

- 生徒は希望する生徒のみが選択できるものとする。どの程度の期間とするかは今後検討
- これまで以上の期間の受け入れとなるため、体験可能な企業はあるか(デュアルとなる学びへの理解も含め)

懸念

■ 改革の方向性

⑤リメディアル(復習科目の充実)

現状の課題

- 中学校までの既習範囲の理解がバラバラで、同じ授業を全ての生徒に行うことが難しい
- 今後学び続けていくためにも主要科目の基礎的な理解が必要となる
- 生徒からも授業の復習への強いニーズがある

改革の方向性

- それぞれの理解に応じて個別最適化された学習を実現する
- 生徒がわからないところに立ち戻り、学び続けることのできる力を養う
(学び続ける学習観との接続)

▼学習のイメージ

AIによる個別最適化学習のイメージ: 三角関数

●つまずきの原因が手前の単元にあるパターン

- ①間違い方を分析し、つまずきポイントへ誘導
- ②習熟度を判定、クリアしたら元の単元へ戻し、進める



習熟度を判定、難易度の高い問題が出題され、単元をマスターしたら次の単元へ進める

⑥授業のオンライン履修の一部認可

現状の課題

- コロナ禍等により、学校で授業を受けることが叶わない生徒が一部いた
- また教室に入ることが難しい生徒もあり、オンライン等を活用して学びの機会保障を行う必要がある

改革の方向性

- 一部限定的にオンラインでの履修等を認めることで、生徒の学び方に合うような履修方法を検討する
(オンラインのみでの履修を認めてしまうことで、授業に参加しない生徒が増えることも考えられるため、慎重に検討したい)



令和6年度入学生の3年間のカリキュラム

カリキュラム (令和6年度入学生の3年間のカリキュラム)

学校独自科目

探究科目

選択科目

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30																											
1学年 (共通)	現代の国語	言語文化	歴史総合		数学Ⅰ					個別最適 数学α 数学A	科人	体育	保健	家庭基礎	情報Ⅰ	英コミ					個別最適 英語α 論表Ⅰ	音楽書Ⅰ	総合探究	LHR																																	
2学年	理系	公共	地理総合	化学基礎	保健	体育	論理国語	個別最適英語β	英コミⅡ	論表Ⅱ	化基	数学Ⅱ	個別最適数学β	情報処理	簿記	ひよっこり表現島	生物基礎 物理基礎	数学B	日本史探究 世界史探究	芸術Ⅱ 古典探究	総合探究	LHR																																			
	文系																																																								
	専門 高専/理学																																																								
	専門 普通/公務員																																																								
就職																																																									
3学年	理系 履修要件あり	体育	論理国語	英コミⅡ	個別最適英語γ	化学	日本史探究 世界史探究	数学探究	Oラボ(理科)	国語実践β	個別最適数学γ	生物 物理	国美α	倫理 政治経済	数学Ⅲ	数学C	くらしMath(数学)	論表Ⅱ	芸術Ⅲ 古典探究	総合探究	LHR																																				
	理系 履修要件なし																																																								
	文系																																																								
	専門 高専/理学																																																								
専門 普通/公務員																																																									
就職																																																									

① 個人の学習レベルに応じたカリキュラム

② 探究科目の充実

③ 授業選択の自由度アップ

令和6年度 大槌高校は新学科に変わります

普通科から

(仮称)

地域探究科へ

これまで通り、

- ① 大学進学から就職まで幅広い進路選択に対応
- ② 1年次から自分の学習レベルや興味関心、
進路希望に合わせて科目選択できる
- ③ 地域社会に関する学びの充実

4 成果と課題

①全教員からなる3つのワーキンググループ(WG)設置

成果：全教員が事業に主体的に関わる体制作りの構築（全体）
生徒・保護者・地域の声を反映させたカリキュラムの検討（カリキュラム）
改革の方向性の明確化（カリキュラム）
ICTを活用した研究授業の実施、校務の効率化（DX）
探究発表会や取組展示等を通して、地域への活動周知（周知・広報）

課題：教員異動に伴う教員間の温度差を埋めるための円滑な取組の継承（全体）
カリキュラム完成に向けた関係機関との調整（カリキュラム）
実証振り返りと個別最適化を目指す授業の提案（DX）
中学生や保護者が新学科に関する理解を深め、魅力的なものと感じられるような周知方法の検討（周知・広報）

4 成果と課題

②地域を題材とした探究の実践と充実

成果：地域社会に暮らす人々と協働することで、自らの人生を切り拓こうとする生徒の増加

課題：地域課題がなぜ生じているかその背景について考える

③先進校事例の収集と情報交換の実施

成果：多くの学校と探究活動、教育課程、地域連携等について意見交換を行い、本校の教育活動にいかせた

課題：他校交流をさらに深め、先進校研究の進展

④コーディネーターの有機的活用

成果：探究カリキュラムの充実、地域と学校を繋ぐ役割を担った

課題：事業終了後も継続配置できる予算措置とコーディネータースキルの教員への伝達

4 成果と課題

⑤管理機関評価

地域との連携・協働、コーディネーターの配置、探究的な学びの充実及び目指す人材育成のためのカリキュラムマネジメントなど、県内の高校では最も先進的に取り組んできた。

社会性に関わる項目が県平均を大きく上回り、魅力的な学びの環境を地域と共に創るという事業構想の具現化が着実に進んでいる。

	大槌高校	岩手県平均
社会性に関わる学習活動	60.7%	50.6%
社会性に関わる学習環境	75.9%	66.8%
社会性に関わる行動	43.5%	40.7%
社会性に関わる行動（3年生のみ）	52.8%	42.2%

高校魅力的評価システム調査結果（岩手県教委提供）

ご清聴ありがとうございました。